

令和4年度 恵那市社会教育委員・地域学校協働活動推進員合同研修会（第3回社会教育委員会議事録）

開催日時：令和4年9月14日（水）

午後1時30～3時30分

開催場所：恵那市役所会議棟 大会議室

1. 開会あいさつ

(1) 社会教育委員長あいさつ

2. 委嘱

(1) 小林英文社会教育委員

(2) 柘植賢二地域学校協働活動推進員

3. 自己紹介

4. グループ協議

地域学校協働活動推進員より説明いただき、社会教育委員より質問、感想、助言等及び意見交流を行います。

- ・各地域の取り組み事例の研究
- ・事例研究から見える実態の把握
- ・社会教育委員との情報共有及び意見交換

成果と課題、学校等との連携、地域の各種団体との関係、地域住民の反応工夫している点、苦労している点など現場の状況について

5. 教育長あいさつ

6. 諸連絡

7. 閉会あいさつ

・出席者の数：社会教育委員14人中13人、事務局6人（以下のとおり）

	役職	氏名	選出団体等	出欠
1	委員長	林 達夫	恵那市三学のまち推進委員会	出席
2	副委員長	磯部 彰	恵那市図書館協議会	出席
3	委員	山内 正一	学識経験者	出席
4	委員	山田 恵市	恵那市文化振興会	出席
5	委員	相原 正文	恵那市青少年育成市民会議	出席
6	委員	森川 伸江	保育士・幼稚園教諭経験者	出席

7	委員	柘植 俊夫	恵那市民生委員児童委員協議会	出席
8	委員	小林 英文	恵那市壮健クラブ連合会	出席
9	委員	百松 義朗	NPO まちづくり団体	出席
10	委員	田口 容子	放課後子ども教室コーディネーター	出席
11	委員	各務 周和子	保育士・幼稚園教諭経験者	出席
12	委員	伊藤 幸正	恵那ライオンズクラブ	欠席
13	委員	阪上 美代子	恵那市スポーツ推進委員連絡協議会	出席
14	委員	土屋 真由美	校長会代表	出席

事務局

1	教育長	岡田 庄二	恵那市教育委員会	出席
2	課長	柄澤 史枝	生涯学習課	出席
3	課長補佐兼係長	伊東 将昭	〃	出席
4	主査	今井 ちえこ	〃	出席
5	社会教育指導員	遠藤 滋	〃	出席
6	社会教育指導員	小坂 忠昭	〃	欠席
7	社会教育指導員	和田 克子	〃	出席
8	社会教育指導員	太田 礼子	〃	出席

・グループ分け

グループ	社会教育委員 下線の方は発表者	地域学校協働活動推進員 下線の方は進行役	生涯学習課 書記
A	<u>山内 正一</u> 、相原 正文 阪上美代子	<u>山田 弘子</u> 、足立 孝晴、 安藤 信明	伊東 将昭
B	<u>山田 恵市</u> 、森川 伸江 土屋真由美	<u>齋藤 輝雄</u> 、小澤 清子、 柘植 賢二	太田 礼子
C	<u>磯部 彰</u> 、柘植 俊夫 各務周和子	<u>安田 和枝</u> 、小栗 秀子 宮地 喜義	和田 克子
D	<u>林 達夫</u> 、小林 英文 田口 容子、百松 義朗	<u>成瀬 あい</u> 、百松 義朗(兼) 丸山 文憲	今井ちえこ

開会（事務局）

皆様、こんにちは、定刻となりましたので、これより令和4年度恵那市社会教育委員・地域学校協働活動推進員の合同研修会を開催させていただきます。本日はお集まりいただきありがとうございます。私は事務局を務めさせていただいております伊東と申します。よろしくお願ひします。

教育長からのあいさつですが、只今、議会对応のため不在ですが、終わり次第、こ

ちらに参りますので、後程あいさつさせていただきます。

それでは、社会教育委員長よりごあいさつをお願いいたします。

1. 開会あいさつ

(1) 社会教育委員長あいさつ

(委員長) こんにちは。社会教育委員長の林と申します。地域学校協働活動推進員の皆様には、地域で頑張っていただいております。コロナも一進一退ですが、早く終息してほしいと願っております。夏がぶり返したような暑さと、大雨など、気候変動が激しく、我々は健康を維持するのも困難な日々です。今日は、社会教育委員会から、地域学校協働活動推進員の皆さんと交流したいとお願いしました。私たちは、地域学校協働活動の勉強をしているところです。去年1年間、地域学校協働活動とは何か、どうやって進めるのかなど基礎的なことを学びました。2年目は実際に推進員の皆さんがどういう形でやっているか、実践を教えていただき、社会教育委員会として地域学校協働活動がよりよくなるよう、意見交換をさせていただきたいと思っています。社会教育委員は市役所で話し合うだけでなく、現場がどうなっているか、どこに困っているかを知ることで私たちも学びになりますし、現場へ何か返せるのではないかと思いますので、よろしくをお願いいたします。地域の子どものため、また地域の活性化につながるよう、推進員の皆様のお力をお貸してください。

2. 委嘱

(事務局) ありがとうございました。それでは、これから会を進めてまいります。年度途中ではありますが、ここで委嘱をさせていただきます。

社会教育委員におかれまして、恵那市創建クラブ連合会から選出の小林英文様に委嘱させていただきます。また、地域学校協働活動推進員におかれまして、飯地小学校、恵那北中学校をご担当いただく柘植賢二様に委嘱させていただきます。この場をお借りしてお二人に委嘱書の交付を行います。

(生涯学習課長より、小林英文委員へ委嘱書交付。柘植賢二推進員へ委嘱書交付。)

(事務局) 前任者が任期途中でご退任されたことに伴う交代ということで、残りの任期を務めていただきます。よろしくをお願いいたします。

3. 自己紹介

一人ずつ自己紹介

4. グループ協議

(事務局) 先に、今回試験的に会議録をとるシステムを使っています。各テーブルにマイクがあり、また床にコードがあります。グループ協議以外の部分を記録に残したいと思いますのでご了承ください。では、遠藤社会教育指導員からグループ協議の説明をさせていただきます。

(遠藤社会教育指導員) グループごとに着席いただいておりますが、記録者として生涯学習課職員が入ります。アンダーラインのある社会教育委員さんは、全体会の場で、記録を基にどんな話ができたか、発表をお願いします。アンダーラインのある推進員さんは、グループ協議の進行役を務めていただきたいと思います。なお、Dグループの成瀬さんは14:30頃退席されますので、丸山さんか百松さんで進行の引継ぎをお願いします。

話していただく内容ですが、各地域の地域学校協働活動の取り組みをご紹介してください。地域の独自性があると思います。時間は30分、各地域10分ずつです。『令和3年度恵那市地域学校協働活動の取組』冊子をご覧ください、推進員さんは、それを基に説明をお願いします。社会教育委員会では、地域学校協働活動の取り組みを調べ、うまくいっているところのポイントや、どうしたらうまくいくのか、という研究を行い、その研究結果をまとめていただくこととなります。今日は、実態把握や意見交換ができるといいなと思います。昨年度の成果と課題・今年度の成果について、小中学校との連携状況、各地域の各種団体・企業との関係、地域住民への理解度・積極的参加の有無、それぞれで工夫している点・悩んでいる点、いろいろあると思いますが、お話しいただき、情報共有をしたいと思います。ここまで30分間、その後10分の休憩を取り、社会教育委員さんからの質問や提案などのやり取りで20分、ここまですべてをグループで行います。その後、30分で全体発表となります。

グループ交流

(遠藤社会教育指導員) では、全体会に入ります。各グループから7~8分をお願いします。Aグループからお願いします。

(Aグループ 山内委員) 成果を3つ、これから考えていきたいことを1つお話しします。このグループは、中野方小、大井小、大井第二小、恵那東中、上矢作小中の実践を伺いました。校区の規模によって活動内容が違いながらも、共通するのは「願う姿」を明確に持っている点だと思いました。中野方は「中野方の良さを見つけて末永く大切にしたい」、大井は「大井大好きと言い切れる子」、上矢作は「郷土愛を育てていく」という形で、この活動を通して子どもたちの願う姿を示されていることが、成果の1つ目です。2つ目は、どの地域も学校との繋がりがあり、いろいろな活動をしてきたので、それを土台にしながら無理のない活動を考えております。これまでの地域の活動を、どの学年に、どの活動を当てはめるか整理して進められていました。3つ目は、推進員の皆さんが各地域の諸団体を知り、どう連携できるか整理して進めている点です。また、「この地域ならではの」という話がありました。大井地区では、「大井宿」「恵那峡」「恵那高」の3つに素材を絞って活動を進めていくそうです。これから考えていきたい点は、日本中の課題かと思いますが、たくさんの住民を巻き込んだ活動にしていくことです。住民への啓発活動をしているが、広がっていきません。子ど

もから保護者までは伝わっても、諸団体やその他の人たちをどう巻き込んでいくかが日本中の課題だと思います。

(遠藤社会教育指導員) ありがとうございます。続いてBグループお願いします。

(Bグループ 山田委員) 北小、飯地小、武並小学校の推進員さんからお話を伺いました。ちょうど武並小の校長先生もいらっしゃり、お話を聞くと、学校と推進員さんの連携が地域にとって有益であると実感できました。3つの地域で、それぞれ特定の分野に詳しいといった人的資源があり、物・場所（五毛座、花壇など）があり、その活動を継続されておりました。すでに行われてきたものを意識して継続されています。また、人的資源を繋げて、新たに企画して加えられたものがありました。毎月実施などは、人手が必要になるので、推進員さんが常に声かけをされている点はすごいなと思いました。まだ始まって1年半ですので、推進員さんと一緒に頑張っていきたいと思いました。

(遠藤社会教育指導員) ありがとうございます。Cグループお願いします。

(Cグループ 磯部委員) ここは、岩村地区、三郷小・恵那西中地区、長島・恵那西中地区の3地区からお話を伺いました。岩村は、冊子28ページ、地域学校協働推進員の関わり方ということで、「いわむら五っこ」を中心に活動しているそうです。地域の伝統文化を結ぶ会を総称していわむら五っこと呼んでいるそうです。岩村中の生徒はボランティア活動に積極的に参加するが、家族との時間も大切にしたいという話も上がってきているようです。小学校と中学校の連携の見直しは求められています。生徒の働く場面が多く、整理してあげないと大変なようです。三郷は14ページ、「三郷に根付く、子ども育てるサポート体制図」ということで、しっかりした体制ができており、その中で活動を推進しています。小学生を中心に、中学生や地域住民が参加するラジオ体操を企画し、夏休みにやり切ったそうです。ラジオ体操にはカードやシールを用意したそうです。長島の推進員さんが「学校行事があつて、地域と繋がっていく」と話され、8ページにあるように「つなぐカレンダー」で年間計画を示し、地域と学校をつないでいます。

(遠藤社会教育指導員) ありがとうございます。Dグループお願いします。

(Dグループ 林委員) 明智地区、東野地区、山岡地区ですが、これまで3つともスムーズに活動を進められているそうです。また、話から推進員さんが積極的に活動されていることがわかります。推進員さんが、地域の人間関係を知っていて、繋がりを保っています。この人間関係が核だと思います。課題としては、次の推進員さんに代わる時に、地域に溶け込んでいろんな人と関りを持っていけるかが、活動のしやすさにつながるのではないかと話し合いました。課題として、高齢者がメンバーに入っていないので、高齢者の知恵をうまく使えるようにしてはどうかということも話しました。学校登下校の見守りや地域の歴史・農業のことを伝えるなど、できることはあっても、壮健クラブが地域学校協働活動の委員に入っていないと提案もできない状況があります。高齢者が活躍できるといいなと、メンバーに入れるということも課題かと

思います。山岡では寒天作りが盛んでしたが、今では生産者も少なくなり、子どもたちが実体験しにくくなってきています。学校で寒天作りの学習を取り入れています、「危ないから」と中止になることもあります。それをどうやって伝えていくかも大事だと思います。活動の進め方で、大規模校と小規模校での違いがあります。大規模校は子どもが多すぎて活動が成り立たない。小規模校は地域が広すぎてどう集めていいかが問題となっています。最後に、地域学校協働活動のねらいを、地域学校協働活動推進員の皆さんが知っているかという点ですが、今までの支援活動とどう違うのかを理解して進めていく必要があります。校長の願いを協働活動のメンバーも理解でき、また、地域の願いを校長だけでなく学校の先生みんなが理解できて活動できているかが重要だと思います。

(遠藤社会教育指導員) ありがとうございます。私の方からいくつかお話ししたいと思います。新しい学習指導要領では「主体的、対話的で、深い学び」と言われます。教科書やノート、黒板や教師の話だけでなく、自ら課題を見つけ、仲間と話しながら課題に対して自分たちの方向性を考えていく。また、自分の力を最大限に生かして世界を切り開いていくことを大切にしています。そのことを踏まえ、子どもたちの将来のためにどのような力をつけていくか、願いの共有や課題を明確にすることが大切です。学校では、学校運営協議会が年間3～6回程度開催され、地域の方、保護者が集まりますが、その場で、「地域の学校として、どんな子どもを育てていくか」を共有し、地域の人たちに伝えていく必要があると思います。地域学校協働活動でも、学校長や教頭先生は、会議へ参加されるので理解がありますが、一般の先生方へは浸透していないように感じます。大規模校の先生方は地域の方と触れ合う時間も持てないと思います。長期休暇の前に、学校運営協議会の拡大版のような、保護者も子どもも入って、いろいろな課題に対してグループワークで交流し、結論は出なくとも、課題や自分たちの想いを共有できるような場があると、自分事として取り組めると思います。地域学校協働活動に人を巻き込むことは大変かと思いますが、個人的にお誘いして、顔を出してもらえたなら、子どもと触れ合う楽しさを体感してもらえらるでしょうし、また次もお誘いできるように工夫してもらえるといいと思います。参加募集チラシを配っただけでは、なかなか参加してもらえませんが、どうしたら参加できるか、「この人だ！」と思った人には1対1で話して、めげずに誘っていただきたいです。

グループ協議の中で「各種団体の代表が、中学生ボランティアを何人出してほしいと校長に頼みに来られ、学校からはなかなか断れない。推進員が、今年度のPTA会長でもあったので、推進員から各種団体へお断りをした。」とお話がありました。推進員として、そういった動き方もできると思います。ただ、事前に各種団体と「どんな子どもを育てたいか、どういう地域にしたいか」を共有し、その願いに沿って、中学生の活躍の場を設けるため、地域の活動にボランティア参加する、という流れを作っていくべきです。また、活動が楽しくないと長続きしませんので、「人と関わって楽しくやる」ことを目指していただきたいです。

林委員長も話された「地域学校協働活動のねらい」は、学校の支援や、子どもたちの活動支援ではありません。それは手段です。学校の支援や子どもたちの活動支援を通して、地域の人たちが活躍し、元気になって、地域の人繋がって、地域が活性化していく、まちづくりが最終的なねらいです。高齢者は地域での役割があって、生きがいを持って生活でき、中高生は言われたことをするのではなく、自分たちで考えて活躍できるような場を用意し、活躍を認めてあげていただけたらと思います。お互い心を開き話し合える関係性を作ることが大事だと思います。

あと、大井振興室長から、「東中、大井小、大井第二小、それぞれの小中にひとりずつ推進員を選出していいか。」と相談があり、承諾しました。地域で話がまとまれば、予算的にも問題ありません。

この場で解決しないことも多いと思いますが、今、思っていることをお伝えさせていただきました。教育長がいらっしゃっていますので、ここであいさつを兼ねて講評いただきます。よろしくお願いします。

(教育長) こんにちは。教育長の岡田でございます。この4月から、教育長に就かせていただいております。今日は貴重な機会をいただきありがとうございます。社会教育委員さん、推進員さんの合同研修ということで、推進員さんからすると、違った立場の人たちから日頃の活動のことを聞いてもらい、ご意見をもらったり、認めてもらったりすることは、今後のエネルギーになると思います。また社会教育委員さんは、その立場から考えたことを伝えていただけるということで、非常にありがたいことだと思います。なにより、子どもたちや地域のために、これだけの大人が熱心に話し合うという場を持てたことがよかったと思っています。各グループの話を聞き、我々も考えていかなければいけないと感じたキーワードがいくつかありました。「ボランティア」という言葉ですべて許され、何でもやってもらえると捉えられるのは、如何なものか。ボランティアは大事なことで、それに伴う気持ちや、そもそも何のために、ということをお話していかないといけないと思いました。「価値観の多様化」で、いろいろな人がいる中、全員が「それいいね」と持っていくのは苦しいと思いますが、それを進めていただくのが推進員さんの大きな役割のひとつだと思っています。「横軸」という話も出ましたが、バランスをとることも推進員さんの仕事かと思いました。

今、学校運営協議会（コミュニティスクール）と地域学校協働活動のふたつがありますが、コミュニティスクールができた時は「地域とともにある学校づくり」という言葉を使っていました。地域学校協働活動では「学校を核とした地域づくり」という言葉をよく聞きます。似たようなことをやっているようですが、どちらに軸を置くかでだいぶ違います。ただ、この両方が一体的に進んでいって、未来を担う子どもたちの成長を地域全体で支える社会を目指すのが、推進員さん含め、地域学校協働活動の役目かと思っています。

先ほど、遠藤指導員から「主体的に」と話がありました。これは、子どもたちもそ

うですが、「教員も地域と関わる中で、地域の一員である自覚と責任を認識し、教育者として意欲を高めていく場にしなければならない。」と校長会でお伝えしました。

「地域学校協働活動は、校長や教頭の仕事だから、一般職員は知らない。」とならないように。恵那市は、半数以上が他地区の教員なので、それぞれの地域のことが新鮮に映ります。行事で出かける先々で「すごいな」と感じることから一歩進めてほしいと思います。また、地域の方にとっても、活動に参加することで、「いきがい」や「自己実現」を目指してほしいと思います。地域と学校をつなぐ大切な役割、キーパーソンが推進員さんです。今、地域から学校への一方的な支援から、地域と学校のパートナーシップに基づいた「連携」や「協働」に進んでいます。他の観点からすると、難しいかもしれませんが、既に行われている個別の支援活動を連動させて、「総合化」や「ネットワーク化」というのも考えていただくといいかもしれません。

私たちの力だけでは難しいのですが、経済的理由や家庭の事情など、様々な状況にいる子どもたちをサポートする視点、ソーシャルインクルージョンと言われるようですが、そういう活動もできないか、検討いただくのもひとつかなと思います。

本格的に始まって、まだ1年と少しなので、このような交流をしながら、それぞれの地域で取り入れられること、前に進められること、たくさんあると思いますので、続かないといけないので、無理のないところでやっていただきたいです。着実に半歩でもいいので前に進みながら、子どもたちや地域のために尽力いただけるとありがたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

4. 諸連絡

(事務局) 社会教育委員さんへ、3点諸連絡を申し上げます。

10月7日岐阜県社会教育推進大会に参加予定の委員さんへ、大会要項を配布しました。会場は、市役所会議棟大会議室となります。当日時間までにお越しください。その場で、岐阜県の社会教育委員表彰ということで、昨年度末までに、5年間の長きにわたって務められた社会教育委員さんへ県表彰があります。恵那市社会教育委員会からも、磯部委員、山田委員、各務委員、田口委員、昨年度末でご退任された松村委員の5名が県表彰を受けられます。ただ、この大会はサテライト会場の参加となりますので、後程の伝達表彰となります。後日の社会教育委員会の折に表彰状をお渡しさせていただきますので、ご了承ください。

次に、11月13日、14日、東海北陸の社会教育研究大会があります。参加連絡をいただいた社会教育委員さんに当日の行程表をお配りしましたので、ご参加ください。

最後に、県の社会教育委員名簿を配布しましたのでご覧ください。以上です。

(遠藤社会教育指導員) 水色のリーフレットですが、社会教育委員さんへ1部、推進員さんへ3部ずつ配布しました。県の社会教育委員の方々が啓発用に作られたものです。

もう1点、令和4年度岐阜県地域と学校の連携協働体制構築事業従事者研修会のご案内です。オンライン研修で、市役所4A会議室又は個人のパソコンで視聴可能です。

参加希望の方は9月27日までに、遠藤か伊東まで連絡ください。以上です。

本日は、推進員さん、社会教育委員さん、ありがとうございました。今日の話合いを基に、進めていきたいと思います。本当にありがとうございました。

令和4年9月14日（水）

社会教育委員会委員長 林 達夫

社会教育委員会副委員長 磯部 彰